

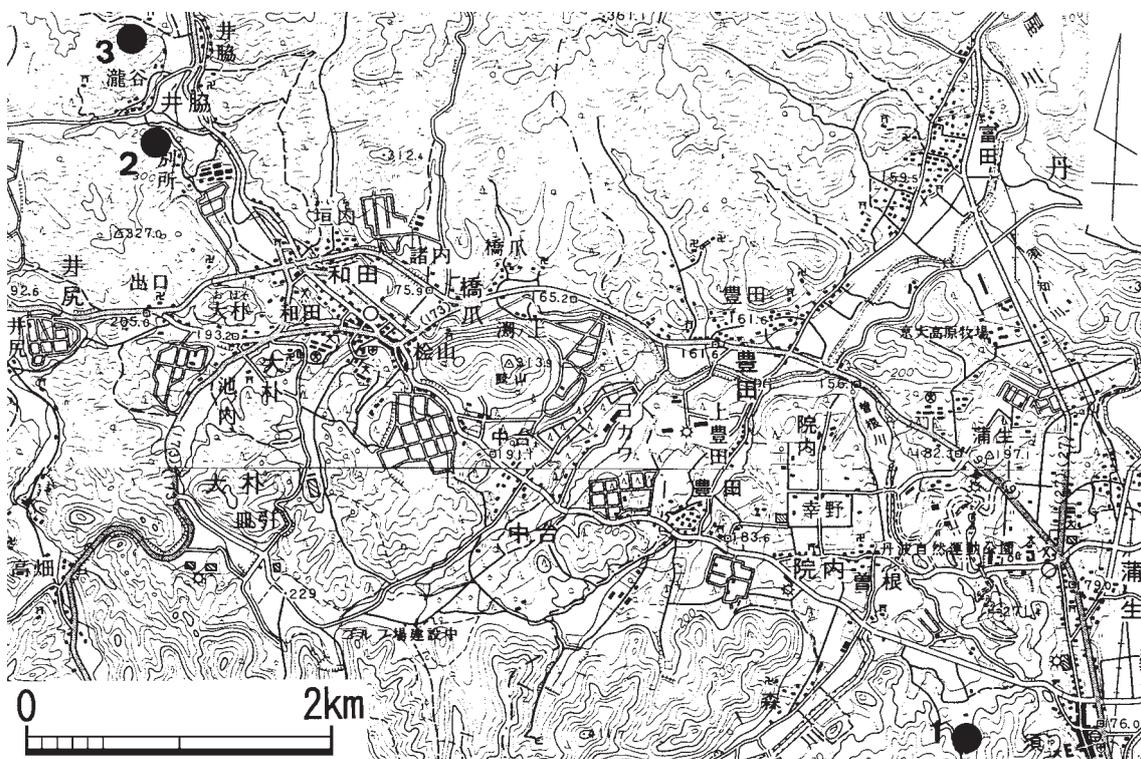
### 3.丹波綾部道路関係遺跡発掘調査報告

#### はじめに

本書は国土交通省近畿地方整備局の委託により、同局が計画・建設する一般国道478号京都縦貫自動車道(丹波綾部道路)の建設工事に先立ち実施した発掘調査の報告である。平成21年度に調査着手した遺跡は、深志野古墳群(京都府船井郡京丹波町曾根)、丁谷古墓(同井脇)、および井脇城跡(同井脇)の3遺跡である(第1図)。このうち井脇城跡は来年度も引き続き調査を実施する予定であるので、来年度調査分とあわせて報告する。今回は調査を終了している深志野古墳群と丁谷古墓について報告する。

現地の調査期間および面積は、深志野古墳群が平成21年5月8日から同年7月6日で500㎡、丁谷古墓が平成21年8月3日から同年9月18日で200㎡である。

調査担当は、調査第2課課長補佐兼調査第1係長小池寛、同専門調査員黒坪一樹、第3係専門調査員石尾政信が担当した。調査にあたっては、京丹波町教育委員会・京都府教育委員会にご協力を得たほか、地元の方をはじめ多くの方々に作業員および調査補助員・整理員として調査に参加していただいた。<sup>(注1)</sup>心より御礼申し上げたい。



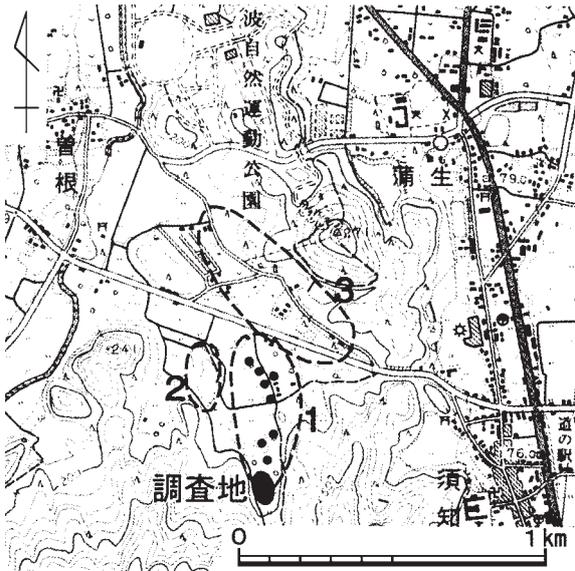
第1図 調査地位置図(国土地理院 1/50,000 綾部・園部)

1.深志野古墳群 2.丁谷古墓 3.井脇城跡

## (1) 深志野古墳群

### 1. 遺跡の現況

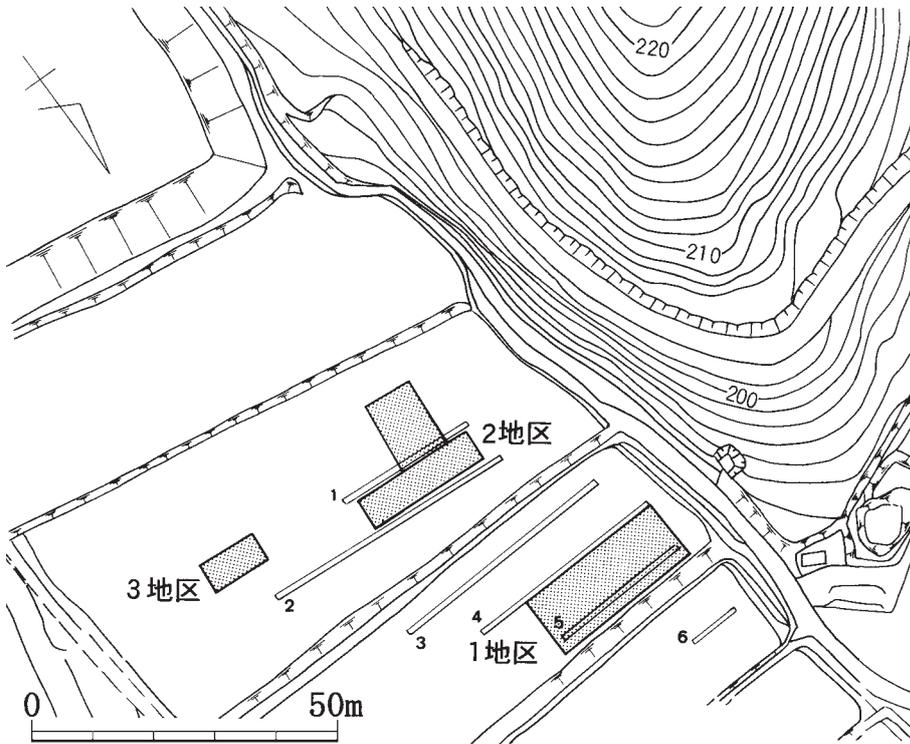
深志野古墳群は、府指定文化財巫女形埴輪が出土したことで著名な塩谷古墳群の南東部に展開する古墳群である。付近には塩谷古墳群のほか、



深志野古墳群と同様の横穴式石室墳が点在する宮の浦古墳群などの古墳がある。昭和44年に深志野古墳群は、宮の浦古墳群とともに古墳の残存状況などが踏査され、合計8基の横穴式石室の存在が明らかにされた。当時すでに古墳石材の露出もみられ、墳丘を含めた残存状況はかなりよくない状況であった。その後、耕地整理などで墳丘や横穴式石室の石材は消失してしまった。調査時には、扇状地性の緩斜面に水田・畑・栗林が広がり、昭和40年代に記録された古墳石材の点在した場所は明らかではなかった。

第2図 調査地位置図(国土地理院1/25,000 園部)

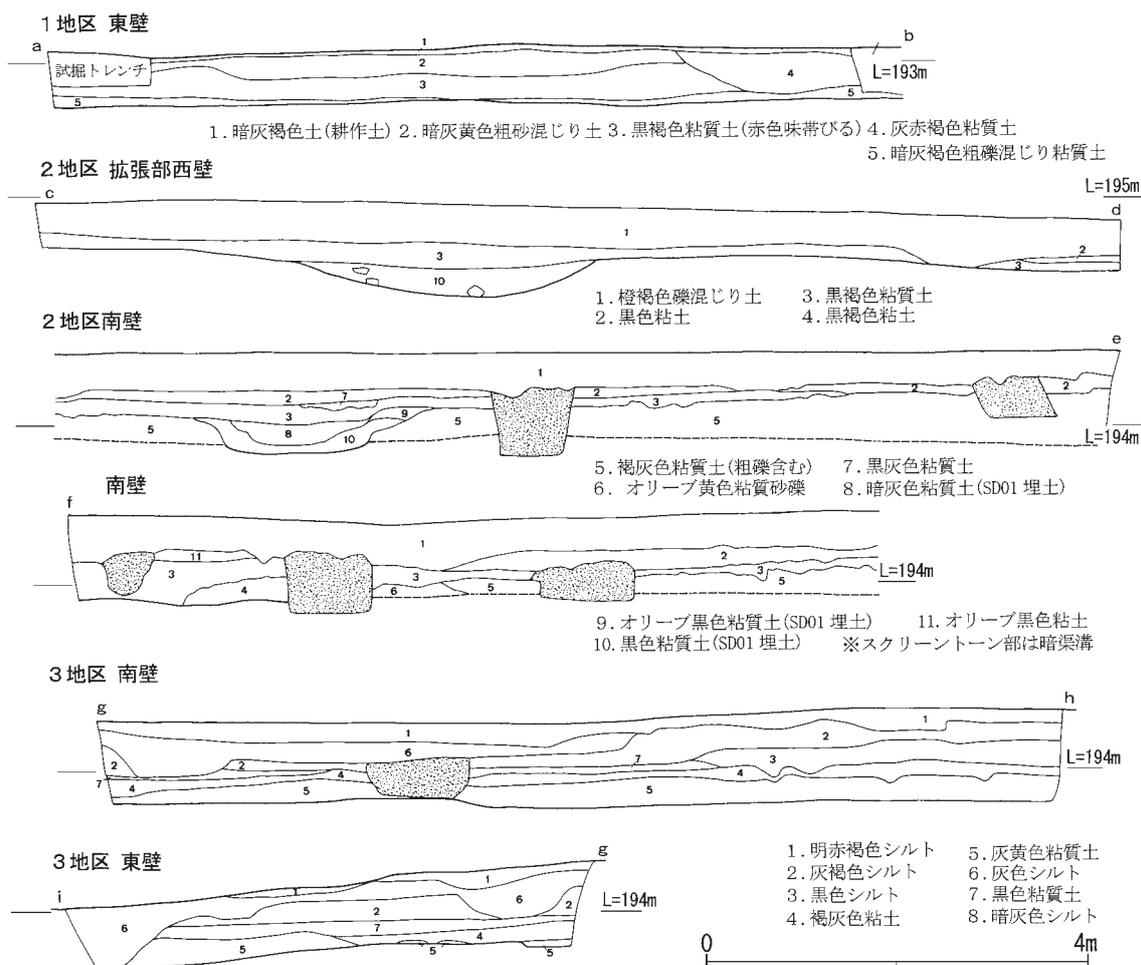
1. 深志野古墳群 2. 塩谷古墳群 3. 宮の浦古墳群



第3図 調査地区配置図

### 2. 調査経過

京都府教育委員会による古墳の範囲確認調査が、合計6本のトレンチ掘削により実施され、暗黒褐色粘質土の溝状の広がり複数確認された。その結果を受けて当センターでは、遺構の存在が想定されるそれらの地点を中心に、合計3つの調査区を設定し、重機に



第4図 1～3地区土層断面図

よる掘削と作業員による人力掘削を行った。調査区および掘削面積は、北から1地区が250㎡、2地区が200㎡、3地区が50㎡の合計500㎡である。1地区から順に精査を重ねた結果、1地区では北東部を除いては耕地整理による掘削により古い遺構面はまったく確認できなかった。出土遺物には、当地が削平されたり付近から流入したことによる遺物がわずかに出土した。

2地区では時期不明の多くの小杭跡や、鎌倉時代の土坑S K02が見つかった。さらに鎌倉時代から縄文時代の土器包含層や、その下層で溝S D01を確認した。このS D01の性格をはっきりさせるため、南側を100㎡拡張した。

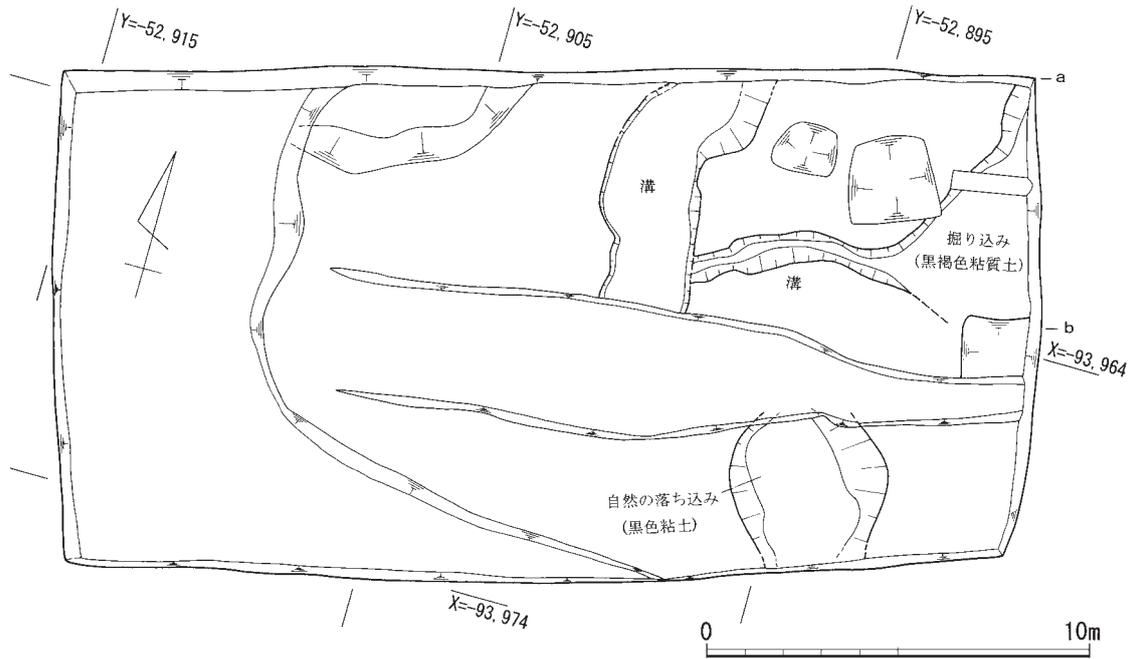
3地区では、耕作土の良好な水平堆積が認められた。南西端の中間層で、2地区と同様の小さな杭跡が3基みつかった。杭跡内やこの面からの出土遺物はなく、時期は不明である。

これら3地区の測量や土層・遺構の実測作業および写真撮影を行い、関係機関に状況説明を行った後、すべての地区を埋め戻して現地作業を終了した。

### 3. 1地区の遺構と遺物

#### 1) 検出遺構

1地区は深志野古墳群の最南に位置する古墳がかかる可能性もあったが、重機掘削の結果、北



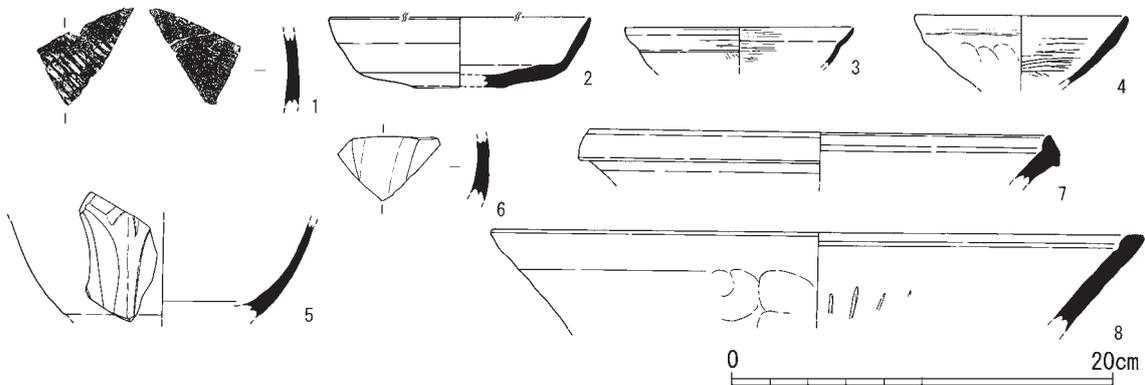
第5図 1地区平面図

東隅部を除き近年の耕地整理に伴う掘削が段丘礫面を削り込み、古い遺構の存在は皆無であった。北東隅部で黒色粘土層の掘り込みを検出した(第5図)。この掘り込みの埋土を東壁の断面で見ると、表土である暗灰褐色土(1層)以下、暗灰黄色粗砂混じり土(2層)、黒褐色粘質土(3層)、暗灰褐色粗礫混じり粘質土(5層)の順に堆積していた(第4図)。3層が掘り込みの埋め土である。出土遺物はないが、北東側の古墳の築造にともなう地形改変の可能性もある。5層は粗い礫を多量に含む粘質土の地山層である。

## 2) 出土遺物

出土した土器は第6図に示した。

1は須恵器甕の体部片である。表面はタタキ目、裏面は調整をナデ消しているのが観察される。古墳時代のものであろう。2は焼成が甘く灰白色を呈する平安時代(9世紀)の須恵器杯である。底部はヘラ切り未整形である。3・4は瓦器椀片である。4は口縁部の内面を強い横ナデにより



第6図 1地区出土遺物実測図

整形している。外面は横ナデと指押さえ痕がみられる。3・4とも鎌倉時代に入る13世紀代の資料である。

5・6は龍泉窯系の青磁椀の破片で連弁文が表現されている。いずれも色調は灰緑色で、連弁部分は緑色である。7は東播系の須恵器鉢の口縁部片である。13世紀代である。8は丹波焼播鉢である。明橙褐色で内面の播り面には1本引きの沈線が施されている。16世紀後半の資料である。

#### 4.2 地区の遺構と遺物

##### 1) 検出遺構

検出された遺構には溝SD01と土坑SK02がある(第7図)。

溝SD01は鎌倉時代以前に谷筋を流れていた自然流路とみられる。拡張部分では、現在の谷に流れている西側の小河川の方に向かう。中間部でやや蛇行する。検出された長さは20m、幅は広いところで2.5m、狭い部分で2.0m、深さは0.3~0.4mを測る。

溝内から出土遺物はなく、掘削時期の特定はできない。ただ、この溝を覆う第3層から縄文時代から鎌倉時代にかけての土器が出土したことから、鎌倉時代以前の溝といえる。

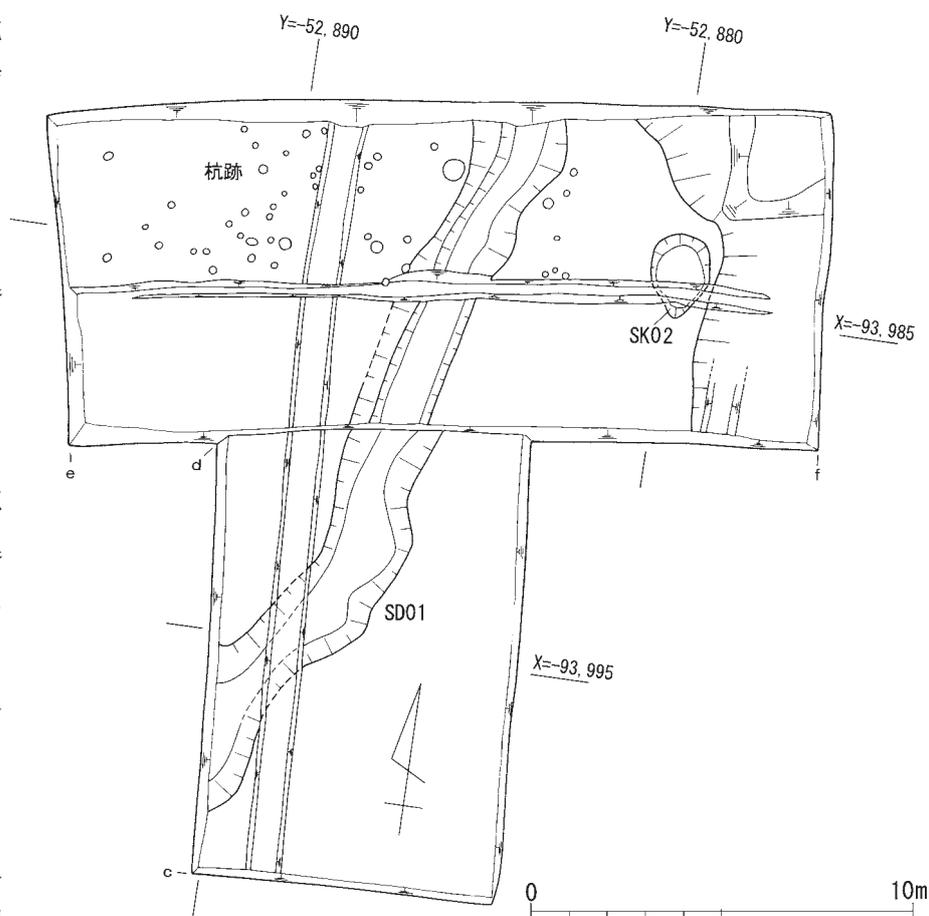
土坑SK02は、いびつな円形で長軸2.2m、短軸1.5m、深さ15cmを測る。黒色粘質土を埋土とし、土坑中から平安時代の須恵器杯・椀の小断片が1点ずつ出土した。

##### 2) 出土遺物

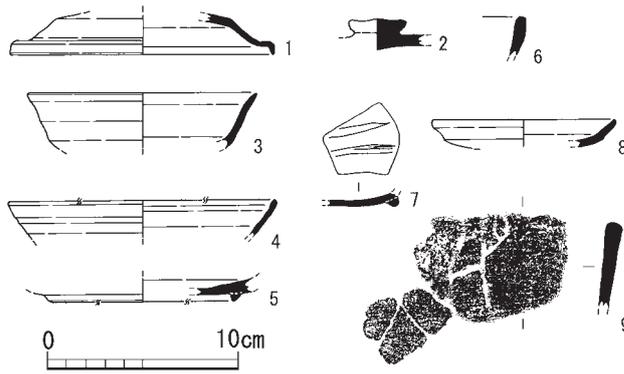
土坑SK02および第3層から土器が出土している(第8図)。

土坑SK02から出土したのは須恵器杯(3)と須恵器椀(4)である。いずれも平安時代にはいる9世紀の資料である。

黒色粘質土である第3層から出土したもの(第8図1・2・5~9)



第7図 2地区平面図



第8図 2地区出土遺物実測図

には、縄文時代から奈良・平安時代さらには鎌倉時代までの土器がある。1・2は須恵器蓋の断片である。やや高さのある1は9世紀、扁平な形態のつまみ部である。2は8世紀末に入るものである。5は須恵器杯Bの底部片で9世紀代のものである。6・7は瓦器碗の破片で、7は内外銀黒灰色を呈する底部で、見込み部に暗文が明瞭にみられる。ともに13世紀に入

るものである。8は銀黒色を呈する瓦器皿で復原口縁部径は9.5cm、器高1.5cmを測る。12世紀末から13世紀はじめのものである。9は縄文土器の深鉢形土器である。1~1.5mmの砂粒を多く含む淡茶褐色の表面に、条痕が施されている。縄文時代後期~晩期にはいるものであろう。

### 5. 3地区の遺構と遺物

#### 1) 検出遺構(第9図)

時期不明の小さな杭跡が3基検出されただけである。直径は0.1~0.15mの小さなもので、黒褐色粘質土の埋土をもつ。

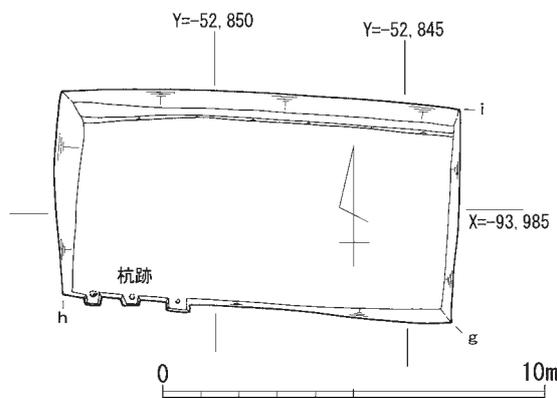
#### 2) 出土遺物

掘削排土から採集した瓦器碗の小破片1点のみである。13世紀代である。

### 6. 小結

深志野古墳群は、合計8基の横穴式石室で構成される古墳群である。今回の調査地は深志野古墳群の最南端にあつて、古墳の主体部や周壕などの遺構が検出できる可能性があつた。しかし、3か所の調査区のいずれからも、古墳の形跡とみられる遺構・遺物は検出されなかつた。

今回の成果は、2地区において中世以前の溝S D01と平安時代の土坑S K02、さらに包含層中



第9図 3地区平面図

から縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器などの土器の出土をみたことであろう。洪水などの影響を受け、自然流路を介してこうした遺物が周辺地からもたらされたと思われる。土器の表面はそれほど磨滅していないものが多く、当調査地周辺の谷部や丘陵裾部には長い期間にわたる集落や墓域が存在している可能性もある。今後とも周辺の調査に注意していかなければならない。

(黒坪一樹)

## (2) 丁谷古墓

## 1. はじめに

調査地は国道27号線と国道173号線が交差する船井郡京丹波町和田の交差点から国道173号線を右折して北へ約1km北上した高谷川右岸に所在し、北東方向に延びる丘陵斜面に位置している。

現地調査は平成21年8月3日から9月18日を要し、調査面積は200㎡である。調査担当は調査第2課課長補佐兼調査第1係長小池寛、同専門調査員黒坪一樹、第3係専門調査員石尾政信が担当した。

## 2. 調査の概要

調査対象地は、北東方向に延びる丘陵斜面の小さな尾根筋の先端付近にあり、直径約7.0m、比高差約0.8mの円墳状を呈する。この部分が古墓とされている。その南西部に比高差約1.0m、幅約10mの方墳状の高まりが見られ、北東部の古墓との間に堀切り状の窪みが見られる。古墓の頂点付近に方形の台石の上に高さ45cm、幅19.2cm、厚さ12cmを測る石碑が置かれていた。石碑の正面に「空田主妙靈禪尼之靈」、左側面に「元禄十六年四月二十一日 滝谷□百」、右側面に「施主 西村亦治 松村善蔵」とある。また、調査地北西側の樹木の間には畝と推定される凹凸があり、かつて畑地とされていた様相が観察できた。南西部には狭い平坦地が2段あり、開削の痕跡を確認できる。

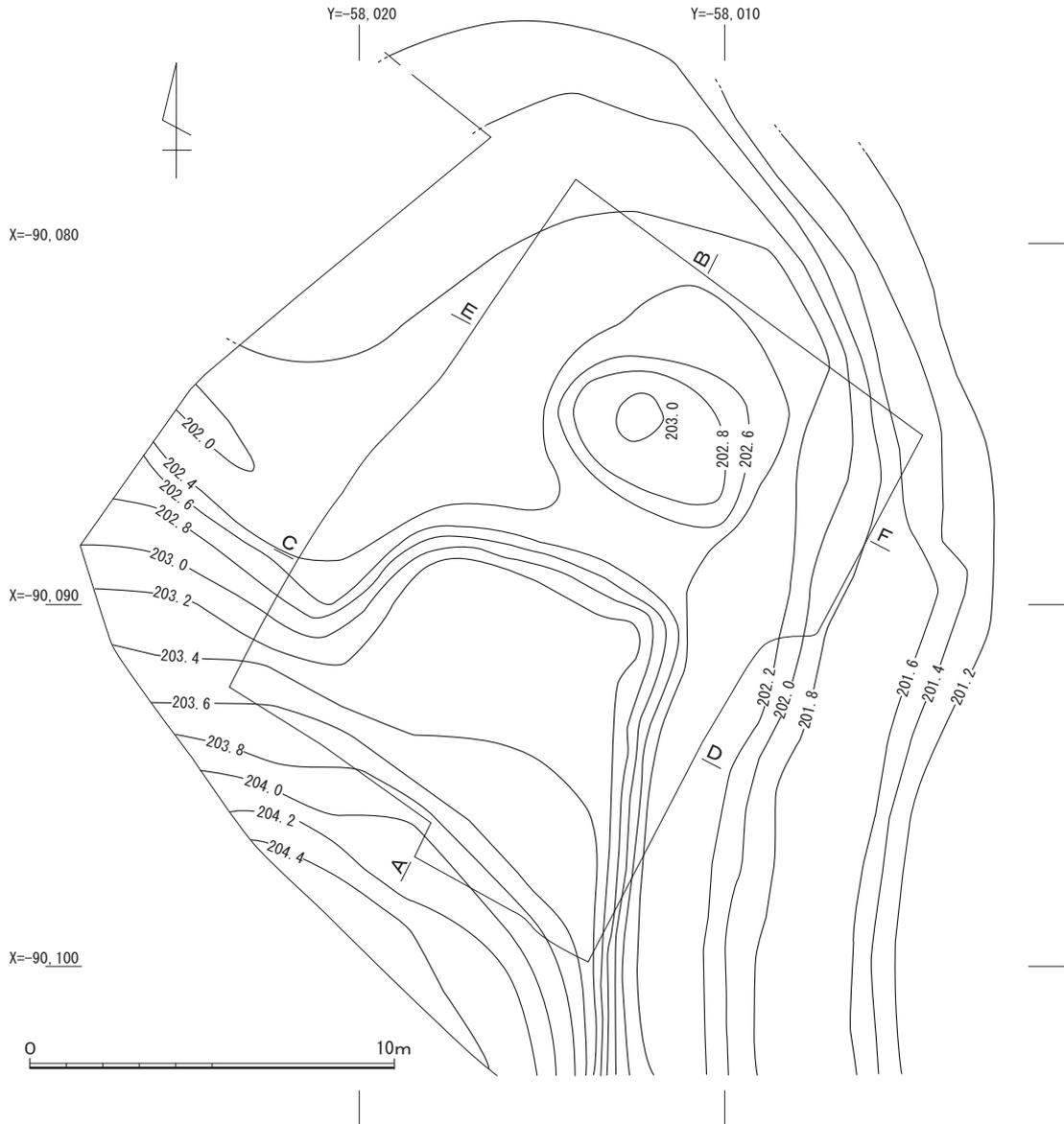
現地調査は、古墓とその南西の方形状の高まりを対象に行った。まず、樹木伐採の後に地形測量を行った。その後、丘陵の傾斜に沿って南西から北東に縦断する土層観察用のアゼと、これに直交する横断アゼを設定した後、南西部から人力による掘削作業を行った。西南部は第13図のように第1層淡褐色腐植土、第2層淡黒褐色土、第3層黒色土、第5層淡黄褐色土、第6層黄褐色土と堆積し、地山が黄色土となる。中央付近で第3



第10図 調査地位置図および周辺遺跡分布図

(京都府遺跡地図より転載)

- |          |          |           |
|----------|----------|-----------|
| 3. 丁谷古墓  | 2. 別所古墳群 | 9. コハケ谷古墳 |
| 17. 井尻城跡 | 18. 和田城跡 | 19. 井脇城跡  |



第11図 調査地地形測量図

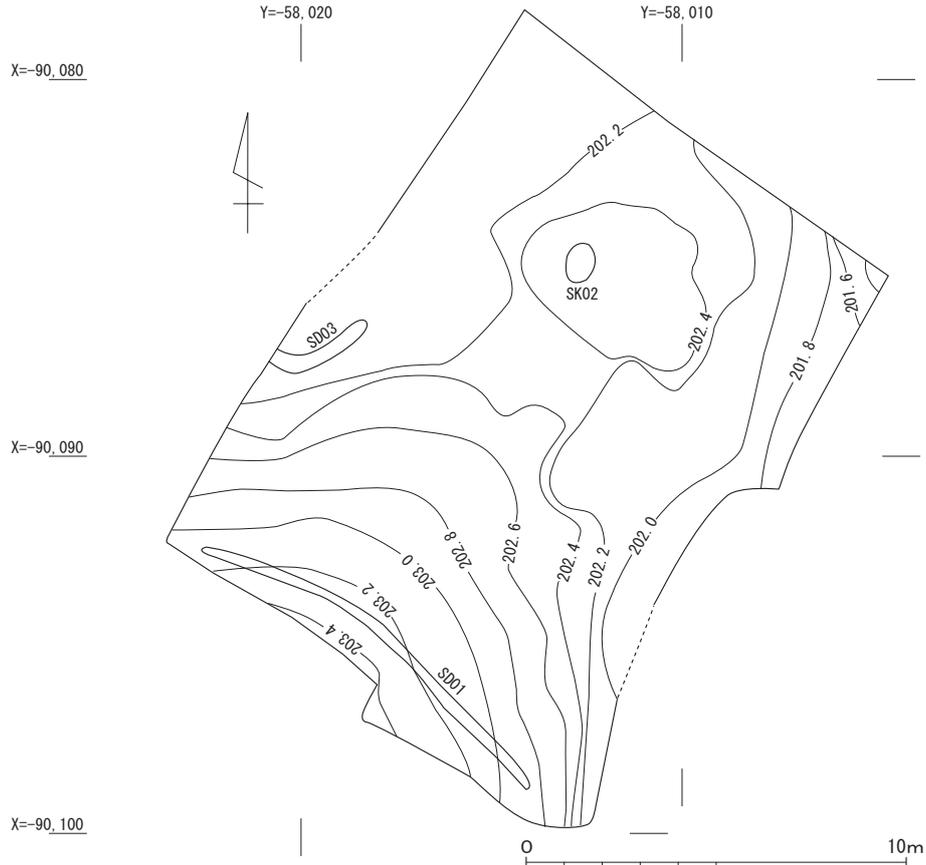
層黒色土に埋まるように直径0.2~0.4mの礫が確認できたが、並んだ様子でなく地山面から浮いているので、周辺の礫を集めたものと判断した。遺跡に関連する遺物は出土していない。

古墓は第1層淡褐色腐植土と第2層淡黒褐色土の下が地山面である黄色土となる。頂上付近で第2層に礫が確認できた。礫は地山面から浮いたものと地山面に置かれたものがある。ここでも遺物は出土していない。地山面で礫が埋まった土坑を検出した。

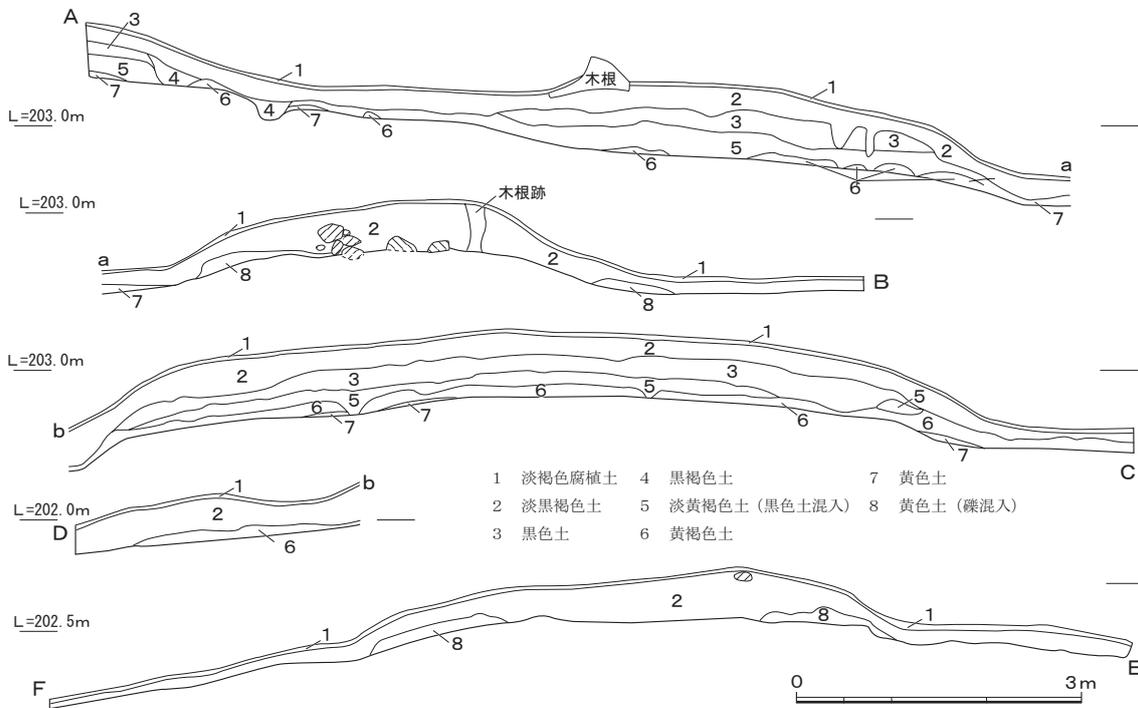
### 3. 検出遺構

検出した遺構には、南西部で検出した素掘り溝 S D01と、西部で検出した畝溝と推定される浅い溝 S D03、北東部の石碑が据えられていた位置の下層で検出した土坑 S K02がある。以下に、検出した遺構について記述する。

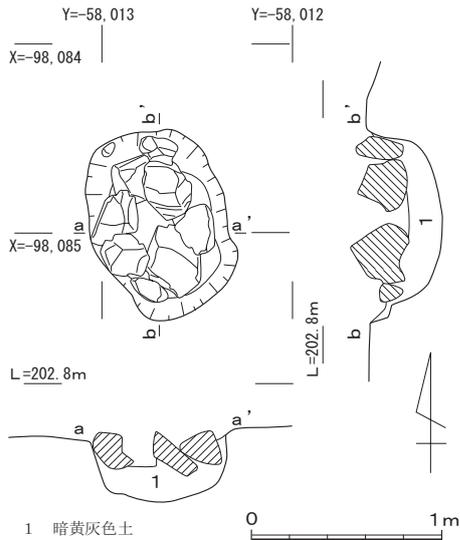
**溝 S D01** 調査地の南西部で検出した、幅約0.4m、深さ0.2m前後を測る素掘り溝である。長



第12図 調査地平面図



第13図 土層断面図



第14図 土坑S K02実測図

さ約10.5mを検出した。丘陵の尾根筋と直交する様に設定されていた。溝の埋土は黒褐色土で上層の黒色土が落ち込んだものと思われる。埋土からは少量の石が出土したのみである。周辺に類似した溝がないので、樹木や竹の根が進入するのを防ぐ目的かと思われる。

**土坑S K02** 東部の石碑が設置されていた場所の下層で検出した。長径約1.0m、短径約0.7m、深さ約0.4mを測る隅丸方形の土坑である。土坑内には長さ0.2~0.3m、厚さ0.1~0.2mの石が土坑の底部から約0.2m浮いた状態で秩序なく置かれていた。出土遺物はなかった。

**溝S D03** トレンチ西部で検出した幅約0.4m、深さ5cmを測る溝である。遺物は出土していない。調査地外の現地表面に、畝溝状の凹凸が見られるので、この溝もそれらと同じく、畝溝の可能性はある。

#### 4. 小結

今回の調査で、北東部の石碑が置かれていた地点では、頂上付近で礫が詰まった隅丸方形を呈する土坑S K02を検出したが、置かれていた礫に規則性がなく、出土遺物がないので墓穴とするには根拠が乏しい。

南西部の方墳状地形では、第3層に埋まるように礫が検出されたが、地山面から浮いた状態で据え付けられたものではなく周辺から集めたもので、調査地周辺の地形改変に伴い集積されたものと思われる。<sup>(注2)</sup>

(石尾政信)

#### まとめ

今回の2か所の遺跡の発掘調査で、まず深志野古墳群からは古墳の形跡はなかったが、縄文時代から中世にいたる遺構・遺物がみつきり、周辺に幅広い年代の集落や古墳の存在が予想された。

丁谷古墓では、今回の発掘調査により、古墓である確証は得られなかった。

(黒坪一樹)

注1 調査補助員：松井大祐、岡本秀平、小島健之助

整理員：茶園矢壽子、長尾美恵子

注2 地元の方のお話しによると、今回調査した丁谷古墓のような石碑が、この周辺に3か所所在しており、丁谷古墓では、「旅の途中に行き倒れた人を葬ったものである」との伝承が残っているとのことである。

# 圖 版

深志野古墳群



(1) 調査地北側遠景(南西から)



(2) 調査地全景(西から)



(3) 調査地南側(北西から)



(1) 1地区掘削状況(南から)



(2) 1地区全景(西から)



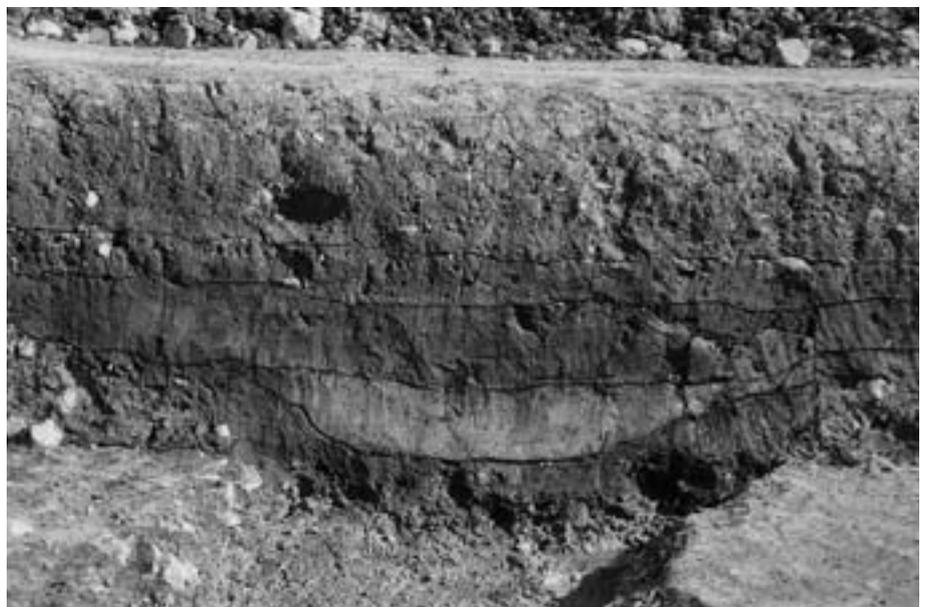
(3) 1地区北東部(西から)



(1) 2 地区掘削状況(西から)



(2) 2 地区南壁断面  
(拡張前、北西から)



(3) 2 地区溝 S D 1 断面(北から)



(1) 2 地区溝 S D 1 (南から)



(2) 2 地区溝 S D 1 (北から)



(3) 2 地区溝 S D 1 断面  
(拡張部西壁、北東から)



(1) 3 地区全景(西から)



(2) 3 地区杭跡掘削状況(北西から)



(3) 3 地区杭跡(北から)

丁谷古墓



(1) 調査前、右側に墓碑(南東から)



(2) 調査前、手前に墓碑(北東から)



(3) 南西部、溝 S D01 検出状況  
(北西から)

丁谷古墓



(1) 南西部、横断アゼ断面と北東部の掘削作業(南西から)



(2) 南西部、縦断アゼ断面(西から)

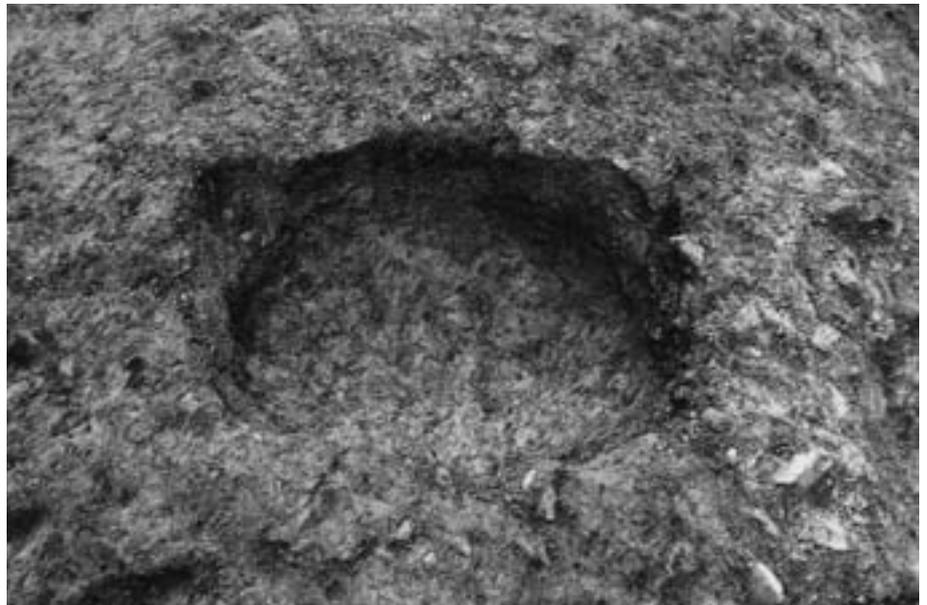


(3) 北東部、アゼ断面(南西から)

丁谷古墓



(1)土坑 S K02(礫混入)検出状況  
(東から)



(2)土坑 S K02完掘状況(東から)



(3)調査地全景、完掘状況  
(北東から)



(1) 1 トレンチ調査前全景(東から)



(2) 1 トレンチ全体(西から)



(3) 1 トレンチ溝 S D03、土坑 S K 01完掘状況(南から)



(1) 1 トレンチ溝 S D03  
土層堆積状況(西から)



(2) 1 トレンチ溝 S D03  
土器出土状況(南西から)



(3) 1 トレンチ土坑 S K01  
検出状況(南から)



(1) 1 トレンチ土坑 S K01 石製品  
(題目塔、北から)



(2) 2 トレンチ調査前風景(西から)



(3) 2 トレンチ全体(東から)



(1) 2 トレンチ溝 S D07 全体  
(東から)



(2) 2 トレンチ溝 S D07  
土層堆積状況 (東から)



(3) 2 トレンチ井戸 S E05 完掘状況  
(西から)

(1) 2 トレンチ井戸 S E 05  
土層堆積状況(東から)

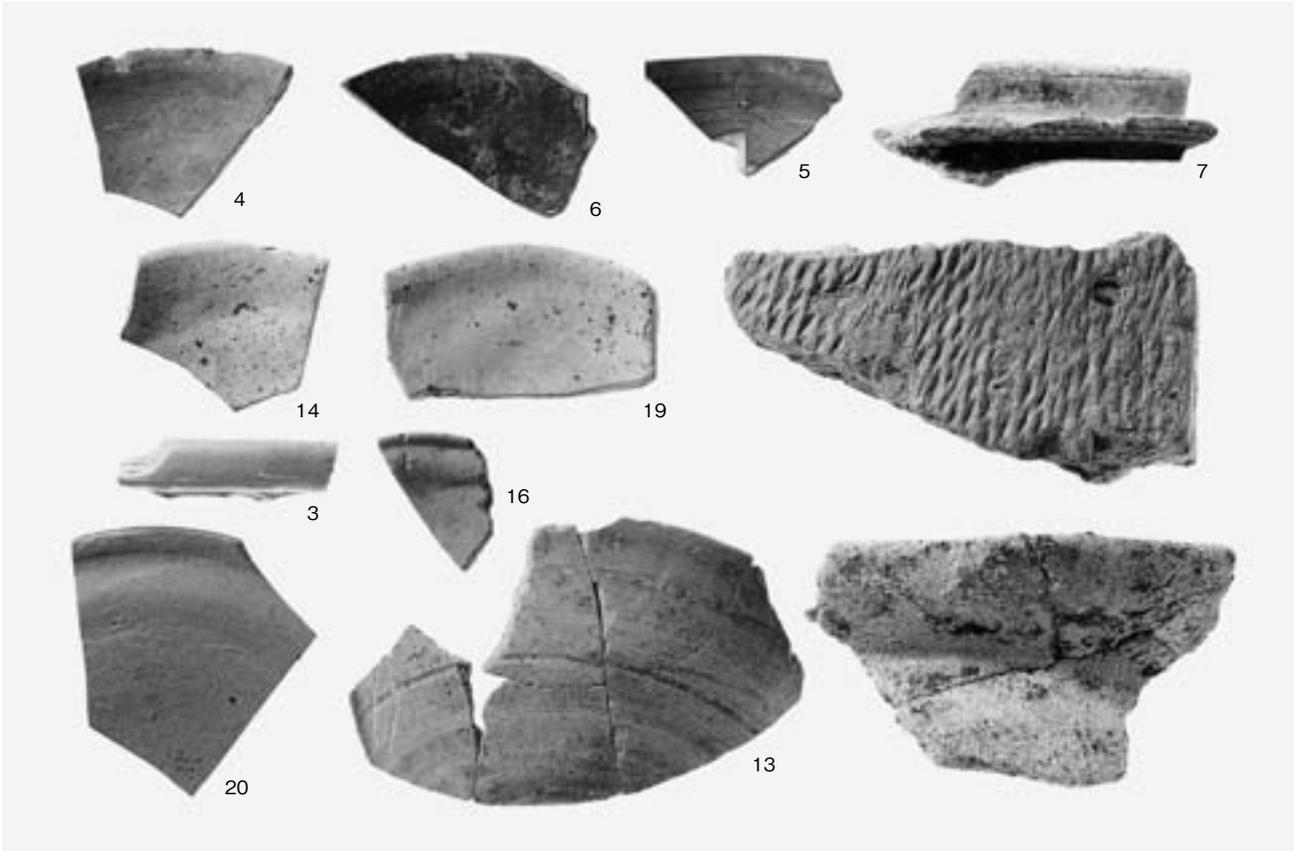


(2) 2 トレンチ P 3 検出状況  
(上が北)



(3) 2 トレンチ P 3 土層堆積状況  
(南から)





(1) 出土遺物 1



(2) 出土遺物 2

京都府遺跡調査報告集 第 140 冊

平成22年 3 月31日

発行 (財)京都府埋蔵文化財調査研究  
センター

〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3  
Tel (075)933-3877(代) Fax (075)922-1189  
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

印刷 三星商事印刷株式会社

〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル  
Tel (075)256-0961(代) Fax (075)231-7141